



特別養護老人ホーム・シャローム東
久留米「シャローム祭」コンサート



<創立 10 周年記念>第 10 回定期演奏会

■12月28日(日) 14時開演

■保谷こもれびホール

■入場料 1,000円(全席自由)
(問) 080-1164-5253 西田

■曲目

ショスタコーヴィチ：祝典序曲 作品 96
リムスキー=コルサコフ：交響組曲「シェ
エラザード」作品 35 ほか

西東京フィルハーモニーオーケストラは1998年に管弦楽合奏を通じて音楽に親しみ、地域の音楽文化に貢献することを目的として、市民の呼びかけでできた市民オーケストラ。今年で創立10周年。当時は保谷フィルハーモニーオーケストラという名称だったが、2001年、田無市との合併を機に現在の名称に改めた。約60名の団員は学生、主婦、会社員など。年齢層も幅広く、最高齢はチェロを弾く80歳の男性。年に2回の公開コンサートをはじめ、地域の小学校や各種施設へのボランティア・コンサートなど、地域に根ざした音楽文化活動を行っている。

その代表であり、ホルンプレイヤーでもある西田克彦さん(64)は発足当時からメンバー。聞けばホルンとの出会いがユニークだ。浪人時代のこと、初めて聴いたフランスの吹奏楽団のホルンの音に衝撃を受けた。「カッコイイ!」としばれたのだ。そして、それまで全く楽器をやったこともなかった青年がホルンの虜になり、ほとんど独学でマスター。立教大学時代から新交響楽団に所属し、腕を磨き、演奏経験を積んだ。

キングレコードへ入社し、企画、

市民オーケストラ 10 周年 人生は音楽とともに

西東京フィルハーモニーオーケストラ 代表 西田克彦

● Interview ●

逆境をいつもプラスに転化させてきたのが西田さんだ。公私ともに音楽と道連れに歩いて来た45年余、識見の深さと実績、幅広い人脈で数多くの文化団体の理事や委員を依頼されている。また、年間140回もコンサートに出向く。聴くことが一番勉強になるという。西田さんのスケジュール帳はいっぱいだ。

アマチュアオーケストラにとっても苦労はやはり練習会場の確



制作などの第一線で活躍したが、42歳の時に退社。その後NECに転職しても、後には企業メセナ推進でコンサート等をプロデュースしていた。60歳で定年退職し、現在は葛飾区文化施設指定管理者、かつしかシンフォニーヒルズのホールマネージャーとして、日々音楽に関わっている。「浪人時代のあの出会いがなければ、違う道を歩んでいたでしょう」

保。保谷こもれびホールや谷戸公民館など市内の施設が取れない時は、立川や新座まで足を伸ばす。大型楽器のティンパニーを貸してくれる所でないとな練習ができないからだ。優先的に貸してくれる所がほしい...団員皆の願望である。

すべてアマチュアでもその技術がプロ級の団員もいれば、未熟な団員もいる。「スキルの違いだけでなく、時間的な制約、家庭環境の違いもあり、それをひとつのオーケストラにまとめるのは大変ですが、皆が音楽好きという共通項があります。今年は特に10周年記念ということで、いい演奏をしよう」と全員張り切っています。どうぞ私たちの演奏会を聴きにいらしてください」と西田さん。

11月初め、立川市にある立川カントリークラブの練習会場を訪れると、50人以上の団員の皆さんの熱気で、狭い室内はムンムン。指揮者の時任康文さんを迎えての貴重な合奏日、12月28日の記念演奏会へ向けて、練習とはいえその表情は真剣そのもの、緊張感みなぎる雰囲気だった。10周年という節目に難曲挑戦という、みなさんの意気込みが伝わってきた。